

第2回吉野川市鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会会議録

日時 令和6年9月26日(木)
午後7時～午後8時50分
場所 吉野川市役所 大会議室

会議次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
(1)再編に関する具体的なメリット・デメリットの検証について
(2)通学距離の問題及び通学支援の必要性について
- 4 その他

会議の経過

1開会 (事務局)	【会議資料について確認】 会議資料 「会議次第」 「資料1 再編に関する具体的なメリット・デメリット」 「資料2 学級規模別の教職員の配置」 「資料3 鴨島東中学校において単学級が生じたことによる影響及び部活動の現状」 「資料4 通学距離の現状と比較」
2委員長あいさつ (委員長)	【委員長あいさつ】
(事務局)	議事に入る前に、本日の出席委員数についてご報告いたします。 本日の出席委員は13名で、定足数に達しておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。 それでは、お手元の会議次第に沿って進めて参ります。 議事の進行につきましては、規程により委員長が議長となりますので、よろしくお願いたします。
3議事 (委員長)	それでは議事に入りたいと思います。 先ほど申し上げましたとおり、本日の議事は、「再編に関する具体的なメリット・デメリットの検証について」及び「通学距離の問題及び通学支援の必要性について」でございますが、通学距離の問題については、再編に関するメリット・デメリットに関係することから、あわせて協議して参りたいと思います。 委員の皆様、いかがでしょうか。
(委員)	(異議なし)

(委員長)

ありがとうございます。
それでは事務局から説明をお願いいたしたいと思います。

(事務局)

【資料1についての説明】

事前に委員から提出された再編に関してのメリット・デメリットについて、項目ごとに整理して説明

【資料2についての説明】

鴨島東中学校及び鴨島第一中学校並びに両校が統合した場合の学級数に基づく教職員の配当数について説明

【資料3についての説明】

鴨島東中学校が単学級となったことによる影響並びに鴨島東中学校及び鴨島第一中学校の部活動の現状について説明

【資料4についての説明】

鴨島東中学校区内の地域別主要地点を8カ所挙げ、それぞれの地点から鴨島第一中学校へ通学した場合の通学距離と通学時間について、現状との比較を説明

(委員長)

はい、ありがとうございます。

ただいま事務局から説明がございました。

資料を拝見いたしますと、鴨島東中学校が存続した場合も、鴨島第一中学校と統合した場合も、それぞれメリット・デメリットが考えられます。

本委員会において、協議するに当たっては、これらのメリット・デメリットが、今後の生徒の教育、また生徒に与える影響を考えつつ、比較検討していく必要があると思います。

現在、鴨島東中学校においては、「そのまま存続する場合」と「鴨島第一中学校と統合する場合」の2つの選択肢がございます。

本委員会として、どちらを選択することが、生徒にとって望ましい教育環境となるのかを判断しなければなりません。それに当たっては、この2つの選択肢についてのメリット・デメリットを、それぞれに整理した上で、比較検討すべきではないかと思えます。

そして、その議論を踏まえた上で、今後の鴨島東中学校がどちらの選択をすべきかについて、委員の皆様のお考えを伺い、本委員会としての意見をまとめたいと思っております。

まず、鴨島東中学校がそのまま存続した場合のメリット・デメリットについての意見をお伺いしたいと思います。どなたからでも構いませんので、ご意見をよろしくお願ひいたしたいと思います。

意見のまとめを最後にしたいと思いますので、ご自由にご意見をお願いいたしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

いかがでしょうか。

(委員)

今、この会としての意見をまとめるということだったのですが、委員全員が1つの方向に賛同するというのでしょうか。

これだけの人数がいればその反対意見もありましたということ添えて、教育委員

会にお示しをするということでもいいのではないかと思います。

(委員長) 一応この委員会でこのような方向性にまとまりましたが、別の意見もありましたということ、事務局に伝えていく必要がある、ということでしょうか。

(委員) 全員同じ意見とは限らないし、概ね方向性は固まったけれども、反対意見としてこういう意見もありましたということは、そのまま、申し添えるというスタンスでいかがでしょうか。

(委員長) 委員からご意見ございましたけれども、それに対してとか、その他にご自身の意見がありましたら、続けてお願いしたいと思います。

(委員) 委員が言われることはもちろんだと思いますし、全会一致ならば、一番良いかもしれませんが、それぞれ皆さん考え方があってと思いますので、概ね、この方向っていうことをまず、決まるのであれば詰めていった上で、反対意見と言わなくても、別にこういう考え方もあるのではないかと、参考の意見みたいな形で付随して、申し送るというのが一番理想的なのではないかなと思います。

(委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(委員) 少し言葉足らずになったかもしれませんが、一番心配されるのはやはり通学距離のことだと思います。

だから、委員会として、1つの方向に行ったとしても、例えば通学距離のことは十分、市教育委員会としても配慮してあげて欲しいということがやはり要ると思います。

(委員長) 委員の皆様のリット・デメリットのところで、やはり統合の場合には、通学のことがかかり意見として出されています。

以前もそのことでご意見があったと思うのですが、通学の件についてもということ、事務局どうでしょうか。

(事務局) 当然今回テーマにも通学距離の問題がありますので、それも含めて、どちらの選択が望ましいのか、その選択をするに当たっては、どのような支援、留意事項等が必要なのかというのを、意見として添えていただければと思います。その提案をいただいた後、最終的に教育委員会としては、1つの方向性を決定しないといけないのですが、細かい事項は皆さんから出していただいた意見を集約して、提言という形にさせていただければと思います。

(委員) 今、皆さんからお話のあった、通学の問題が統合に対し、どれだけリット・デメリットとして影響するか、その前提で、今委員長の方からお話があった、子どものための学習環境をどうやって整えるかというところで考えてみると、リット・デメリットがあげられているが、リットの方が大きいような気がします。

一番最初1回目にもあったように、もう目の前にデメリットが大きくなる課題が来ているので、私個人としてはもう早く統合なら統合と決めて、それを出てくるデメリットをいかに少なくしていくかという議論、それも含めて今回提言するということで、このアンケートにも書かせてもらったのですが、やはり、統合するという前提で、デメリットを極力少なくしていこうとすると、恐縮なのですが、教育委員会だけの問題

ではないような気もします。

吉野川市の教育環境というかまちづくりとして、鴨島第一中学校の周辺、公民館も含めて、教育ゾーンみたいにしていくのであれば、通学路の整備を教育ゾーンも含めたところで、少なくとも、こういうふうに綺麗にしますというようなことがあれば、そのデメリットのところも消えていくような気もするので、提言を踏まえて、教育委員会から行政部局の方にその議論に巻き込んでいくというようなことも必要なのではないかと思います。

統合というのは、これから皆さんの意見を聞かなければならないのですが、生徒のことを思うと、やはりもう早く 2 つ一緒にしないとどうしても 1 学級だけではデメリットの方が大きいと、私は思います。

(委員) 委員と同じで、あえて統合しない、そのまま存続した場合のメリット・デメリットと書きましても、やはり前回の会議の流れとか、いろいろ委員の皆さんのご意見を伺うと、やはり早く結論を出してあげて、子どもたちにとって一番いい方向性を早く決めてあげることが大事なのではないかと思います。

実は、もうこの 1 年で休校すると決められた学校に校長として赴任したことがあります。

そうすると、決められたら、もう子どもたちはそちらの方向に向かって、どんどん準備ができていって、地域もそういうふうになって、どういうふうにして、交通手段を考えていくのかはすごく具体性ができて、気持ちの整理もできて、跡地利用も考えて、いろいろなものが 1 年で流れていきました。

そういうこともあって、子どもをファースト、一番ということと、デメリットをいかに少なくして私たちがそれを考えていけるのかな、ということに行くのがいいのではないかとということで、細かいメリット・デメリットを言いたいところなのですが、なんか時間がもったいないと思い、言わせていただきました。

(委員) 今までメリット・デメリットの話が出ていて、ちょっと離れてしまうので恐縮なんですけど、牛島小学校は、卒業したら東中学校に行くのか、一中に行くのかということで悩んでいて、もう保護者も今の 6 年生から順番に悩んでいます。

いつ統合するのかということがすごく不安で、今、東中学校に進学ということを選んだ場合にも、先では統合したらということとを心配して、一中に行くか、東中学校に行くかということを考えています。

東中学校のことを考えると、そういうふうに子どもはもしかしたら先を見越して、保護者も考えて、一中の方に流れていくことが多くなるのではないかとすると、この生徒数の推移も、またより東中学校が少なくなっていくというようなことが考えられます。今の推移とは別に、保護者生徒、児童の不安を考えると、早く結論を出して、「いつ」というのが必要だと思いますし、今日の会で、メリット・デメリットを話し合った上で、今日ある程度の方向性を考えていくという段階でしょうか。

(委員長) 存続と、統合の 2 択だと思うのですが、一応今日の会議で、どちらの方向性に持っていくのかというのを決めるのがいいのかなと。

その上で、今いろいろお話していただいているようなデメリットの部分をいかに解決していくかということは今後だと思うのですが。

他の委員さんどうでしょうか。

(委員) 実は昨日の晩、鴨島第一中の学校運営協議会がありまして、私はこのことには触れ

たらいけないかなと言わなかったのですが、最後に校長先生が、東中学校には実はそういう話が出ていて、一中として東中学校の生徒さんが来てくれることについて、委員の皆さんはどうですかという話が、最後の方、閉会間際にありました。

そういう中で皆さん、昔の一中だったら東中学校の生徒さんは来てくれないかもしれないけど、今落ち着いているから、どうぞっていう、なんかすごく具体的な話があったのですが、今だったら、一中は落ち着いているし、東中学校の方どうぞという雰囲気になるのではないかなという意見がすごく出てきまして、何か前に向いているなという感じはしたところです。

(委員長) いろいろとご意見いただいているのですが、他にはどうでしょうか。

(委員) 今の話の流れからいくと資料 1 の裏面の鴨島東中学校が鴨島第一中学校と統合した場合に考えられるメリット・デメリットのデメリットの部分はどう解消されていくのか。ここが一番の論点なのかなと思ったのですが、今も誰 1 人取り残さないというところで進めていきたいと思いますということで、私は職業柄、不登校とか特別支援を必要とする子が一番困るのかな、通学距離が延びることでまた学校が遠のいたりとか、通いづらくなる子どもたちがいるのではないかな、そこはしっかり支援していかなければいけないのではないかなと思っています。

通学支援の部分もあるし、安心して過ごせる環境、鴨島東中学校の有効活用というところもあるのかもしれませんが、東部地区の小中学校のあり方なので、東部地区の教育の環境もあわせて考えていく必要があるのかなというところ。

あと、保護者との連携が希薄になる、連携が図りにくくなる、ということは、これは障がいのあるなし、不登校のあるなしに関わらず、これはもう皆さんのリスクというか、連携を図りにくくなるのかなというところで保護者との連携ということで教員の数も、配置数を見るとそんなに多くはない、地域資源を使ってソーシャルワーカーさんを入れたりとか、そういうところの部分も考えていかなければいけないのかなと。

今日の議題としては、そのデメリットの部分を解消していくのかというのを、前向きに話し合うべきなのかなと思っています。

子どもたちが増えると教職員数も増える、けれども、この 25 人ではないですね。現在もプラスで定数以上に教職員がいますよね。

(事務局) そうです。ここはあくまでも基準表に基づく配置なので、これに、加配教職員を加えた職員が総教職員数になります。

(委員) そうだと思いますので、ここは特別支援学級の児童生徒さんも徳島県でももう右肩上がりでずっと上がって 3,000 人超えていらっしゃるし、20 年後のことも考えましょうということ、20 年後、横ばいなのか上がっているかもわかりませんが、支援が必要な子と言うか、ニーズに合わせて指導していくことで教育環境を良くしていくということになると思うので、こちら辺のことも考えながら、話をしていけばいいのかなと、まず今日はもうこのデメリットのところをどうしていけばいいのかなと、委員さんからいろいろ聞きたいなと個人的には思っていました。

(委員長) 今、委員からデメリットについていろいろ意見を聞きながら、方向性につなげていければいいかなということでしょうか。デメリット解消という意見もございました。このことについて、他の委員の皆様、どうでしょうか。1 つのデメリットの中では、通学のことが出てきました。

また、委員から出てきたのは、不登校問題とか、特別支援の問題とか、そういったことの支援も必要ではないかと。通学だけでなく、そういう支援も必要ではないかなということも出てきております。保護者との連携のことも出てきました。他の委員様どうでしょうか。

(委員)

公民館に勤めているので、朝の通学状況を見ていますと、大半が保護者の車での登校になっております。それでやっと来られているのか、喜んで登校しているのか、歩いて来ている子どもたちもいるのですが、もうごく少数です。

そういう現状の中で、通学の問題を取り上げても、学校に行く距離が、非常に長くなると、まず、朝の登校、それが親頼みになって、親が学校まで運んでいくというようなことも今の通学状況を見てみると、自分の足で学校まで行くということが、自転車に乗っていくとなると気持ちも変わるかもしれませんが、子どもの心の中まではわかりませんが、物理的な今の現状を見ると、非常に学校への不安が大きくなると、登校も、だんだんと足が遠のいていくのではないかと、そういう心配もあります。

子どもの場合は、今後、統合となった場合、学校に足が向くことが当たり前になって、通学すると、そういう状況というのが、作られなければ、なかなか、自分で自分の壁を作ってしまうような、ところに陥ってしまうと。

どうしてもなかなか入っていけないようになると、統合しない方が良いかということ、その辺り、非常に、新しく作られる学校の体制ですね、子どもを受け入れ、そういう状況を、旧の学校に1つ、入っていくというのではなくて両方が、両学校が1つの学校になる、このような形でないと、人数だけのパワーで、図られてしまわないように、学校として子どもの行き場所が作られないと、本当に苦しい立場になる子どもができてしまうと統合の意味にそれを補おうとすると、本当に後からの対策では、到底このずれは、収まっていけないのではないかと思います。

ですから、同じような、規模が小さくても、規模が大きい方に引っ付いていくというのではなくて、2つの学校で1つの学校を作るというような、そういうふうなものをどうやったら作っていただけるのかなと、そういうことも踏まえて、いろいろなことをしていかないと、距離が遠くなったから運んで連れていけばいいというだけの状態では、今後、新しい魅力というのは、私の勝手な想いですが、

方向性にならない状態になるのですが、その両方の学校が1つの方に行くとしても、2つで1つの学校と、というようなものが何かできないかなというのが今の想いです。

(委員長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(委員)

今、たくさん意見を伺って、やはり鴨島第一中学校へ、東中学校が、くっつくという言い方がいいのかどうか分からないが、そういったときはデメリットのお話を中心にというふうな意見があったと思うのですがその通りだと思います。

その中で、委員がおっしゃったんだけど、一中に東中学校の少ない人数が入っていくと考えるのか、2つの中学校が1つの学校にというような言葉があったと思うんです。ここで、質問なのですが、これは、対等合併というわけではないんですよね。

(委員長)

事務局からお願いいたします。

(事務局)

教育委員会としては、仮に統合となった場合、どのような形になるのかというのは、今全く想定はしておりません。前段としてこのあり方検討委員会の方で、どのような形が一番、児童生徒にとって望ましい教育環境であるのかというのを、ご提言いただ

いて、その中身については、今後精査をして、どういう形で、どちらかの選択をする。
例えば、今、統合のお話出てますけれども、統合するに当たってはどのような形式、
内容、形で統合していくのかということのも最終的には教育委員会の今後の判断になって
くると考えています。

今の段階ではまだ何も想定しておりませんし、決まってもないです。

(委員)

はい。ここに座って2回目なんですけど。

何か対等合併もまだ含まれるというふうに捉えてしまうんですけど。それでも構わ
ないのですか。別に私、この意見を言うことによって後ろ向きになったらいけないな
とは思ったのですが。

(事務局)

ご意見としては、いろんなご意見があると思いますので、それを受けて最終教育委
員会がどのように判断をするかというのは、また今後の話になってこようかと思いま
す。

(委員)

すみません、ありがとうございます。

その対等合併がどうかということよりも、私が思うのは、東中学校が少人数ですの
で、一中の方に行くと、やはり東中学校の生徒さんが、やはり大きなところに入って
いったときに、ちょっと不安な気持ちにならないかなという気持ちはちょっとありま
す。

それで、今日のこの会が、支援という言葉に対して言うのであれば通学距離のこ
とについてだけのように私は受け取ったのですが、それ以外はもうないのかなと。それ
もデメリットの中の1つじゃないかなとは、私は思っています。

一番最初の案内には、2つあって、今後の児童生徒の状況とか、地理的条件等を踏
まえた学校再編の是非というのはもちろんよくわかるのですが、その2つ目その他望
ましい教育環境の実現に向けて必要と認められる事項ということにおいては、ここに
生徒という言葉は入ってないのですが、やはり生徒が中心だと思います。

しかし、ここの望ましい教育環境の実現ということにおいては、やはり教職員も入
っているし、やはり地域も入っているというふうに捉えているので、できる限り統合
するならば、生徒さんが心地よく過ごせるような状況になって欲しいけれども、その
時に、やはり、働きやすい教職員の環境も、この中に入っているのではないかなとい
うふうに思いました。

この意見の中に、正直言って私が書いているのだけど、一中に行くのならば制服、
体操服を含めて、約8万円、女の子だったらもうちょっと増えて10万円近く、10万
円を超えてかかるということを知りました。

これ、東中学校に入った子が、今度一中へ行くとなれば、各個人にそれだけかかる
というの、それに対して、お金なので難しいのですが、支援ということは考えられ
ないのかなというのもちょっと思いました。

支援にはいろいろたくさんあると思いますが、そちらの方も、委員さんの皆さん、
もうちょっと考えていただいたらどうかなというふうには思います。

一中の生徒さんがどうこうということは私は言えないのですが、やはり基本的に少
人数のところから、大きなところに入っていきときの不安とか、そこに、先ほどらい
委員さんの言葉にある、やはり不登校とか、そういうふうに絡んでいって欲しくない
という思いがあっても、私の意見というふうに捉えていただいたらと思います。

(委員長)

制服などいろいろなことについては、今後一応の方向性が定まった後いろいろなこ

とが出てくるとは思いますけれども、今話し合っているのは、統合の方向性に行くのか、存続させていくのか、方向性を定めることと、それに伴って、一応参考資料として、通学のことが出てると思うんですけども、今、東中学校でも、不登校生徒などどのような状況でしょうか。

(委員)

不登校生は、本校も1つ悩みの種として、あるのは現実です。

実際に全く学校に来られない生徒、時々登校できる生徒、全く登校できない生徒の中には、担任が家庭訪問しても、担任とも会えない生徒もおります。

本校は魅力ある学校というのを目指しておりまして、できるだけ不登校、それから支援にかかるような生徒に対して、できるだけ手厚く手厚くと、これは小さな学校の大きなメリットだと思います。そこを非常に大事にするような教育を施しているところではございます。

これが委員おっしゃるように、大きな学校に行ったときに、どういう反応するのかなど、かなりケアが要るだろうし、事前にこうなりますよという指導もいるだろうし、実際、その新しい学校を吉野川市役所の前に、うちの学校も古くていろいろ壊れて大変なので、新しい学校をどんどん建てていただいて、一中とできたら、同時に引っ越しするような形が一番理想なのかなと思ったりもするのですが。

そういう不登校等に対するケアは気になる面ではあります。

(委員)

先ほど言いました、2つの学校が1つになるというのは、新しく学校を作ることになると、年数が相当かかるので無理だろうというのは前提ですけども、そのあたり思い切って、新しい学校を作りますという宣言をしていただけたら、色んなものも前に進んでいく部分があるんじゃないかなと思います。

現実不可能なことを言っておりますが、一番は教職員が子どもに全力投入できるか、新しい学校を作るのであれば、そういう環境を目指して作っていただければと思います。

やはり教員が疲れてしまうと、子どもは本当に敏感ですから、先生が意欲を持って働ける、そういう職場、新しい学校にして欲しいと私は思います。

(委員長)

他の委員さんいかがでしょうか。

(委員)

森山から一中に登校している保護者の方から、現段階でも、一中の前のところの交差点、国道のところ、雨の日であれば、教頭先生が来て交通整理をしていると、自転車の整理をしていると。もしこれが東中学校の子どもたちが通学するようになったら一体どんなになるんだろうかと。

先ほど委員おっしゃられたように、例えば上に高架橋をつけるのかどうかとなってくると先ほどおっしゃってくれたように市あげての形にならざるを得ないのかなと。

だから、統合する場合のデメリットは、今出てきているものだけではないと思います。

私も今回のこの資料を書いたときに、統合する場合のメリット・デメリットは結局、東中学校が存続するメリット・デメリットの逆バージョンで通学路だけなので、ほとんど書いてません。

むしろ、先ほどから話されているような統合する場合に、バリアフリーではないのだけど、子どもたちにとってバリアになるようなもの、保護者同士、それから教職員、たちまち異動が起これると、東中学校の子どもだけの異動ではなくなるので、東中学校の先生がある程度は、沿っていかねばいけいけいかなと、今まで山とかで、統合

した場合に、そこまで、一緒だった先生方も異動する場合があると。

先ほどの支援のこと、不登校のこともありました。

そういう場合のこともありますので、東中学校だけのメリット・デメリットではなくて、一中の方も当然いろんなところがあると思うので、先ほども統合が決まってから、考えること当然そうだと思います。もう決まったらそこへ向かって走っていくので。

でも、その段階で出てくる内容によったら、東中学校区の保護者にとっては、先ほどからの不安部分ですよね。そういうところが大きくなるのであれば、統合を決める前にある程度のことを話し合っていないと、私は不安自体が消えないような気はします。

だから、統合するのকাশないのかという部分も大事なのですが、先ほどから委員の皆さんが話されてるような部分も、当然必要なのではないかなという気はします。

(委員)

私も同じような意見なのですが、各学校には、それぞれ今まで培ってきた風土があって、一中の風土と東中学校の風土があって、今の話の流れからも私も、東中学校の子どもたちが、一中に吸収されていくというイメージであると、やはり今バリアの話がありましたが、保護者も肩身の狭い思いということもあったり、子どもがあそこまで感じるかどうかかわからないですが、今までの環境と、細かいことですが、制服も変わる、決まりもある程度変わっていく、そういう、すべて、一中の中で生活をしていかなければいけないという概念でいくのか、これはもうとても難しいと思いますが、校舎を別にするというのは難しいと思う、建てるというのは本当現実的には難しい。

一中の方も、東中学校が入ることによって、ある程度改築とか、何か必要なこともあるのかもしれないですけど、新しい学校だよという認識をすべての一中の生徒さんも東中学校の生徒さんも持って、これから、みんなで新しい学校を作っていくんだよという方向で進めていく。そのために、デメリットの洗い出し方がちょっと変わってくるのかなと思うので、本校も、牛島小学校に上浦小学校と一緒に進めています。私も、両地域を、同等のことだと考えて、もうすべて、みんなで1つですよというふうな概念で私は持っているんですが、なかなか、人の心はそういうふうにはバリアが、綺麗にとれるわけでもないと思うので、そんなところを、新しい学校を作るという意識を持っていきたいなと思います。

(委員長)

他の委員の皆さんどうでしょうか。

(委員)

統合するに当たった場合、やはり不安というのは、今話していても、なんかいろいろやはりあるかなと。それが本当にただの不安なのか、それとも実際だったら、別にどうってことないのかそれはわからないんですけども、ただ、美郷中学校が山川中学校と一緒になったときに、市の教育委員会はそれなりに配慮や工夫もしてこれたのではないかと思います。

また、きっと、他の県内とか、県外もあるかもしれませんが、そういうふうには、今回のようなケースになったときに、どういうふうな配慮というか、地域なり、親御さんや子どもたちに対して、大丈夫だよ、こうやってするからねというようなことを配慮されたのではないかな、そういうケースをいくつか、調べられてたら、もしあったら、我々の不安を解消するために教えていただければと思います。

(事務局)

現段階で、具体的に例を挙げられるものはないのですが、もしこれが統合というような形で教育委員会の方針を出すのであれば、じゃあ来年度からという話は当然ならな

いので、準備期間が必要となってきます。一般的に統合するようなケースの作業として、2年ないし3年という期間をかけて、それぞれの該当校から関係者に出発して準備委員会というような組織を立ち上げまして、さらにその作業部会を細かく分野別に作って、両校のご意見を伺いながら、細かいところの取り決めをしていくというのが一般的な作業スケジュールが他県、他校での事例にはなっております。

もしこの鴨島地区でのそういったものができるのであれば、現状に合うような課題を解消するため、該当する相手方の学校関係者にも出ていただいて、相談して決めていくような形になるのかなというふうには今、イメージを持っております。

(委員) 過去例、その辺、ケーススタディーというか、市内でなくてもいいのですが、どこかそのようなことを研究されてはいるんですか。

もしそういうのでA中学校がB中学校と統合したときに、その市はこういう配慮をした、通学距離が遠くなることについてこういう配慮してたとか、子ども一人ひとりに対して寄り添うというのはなかなか難しいという不安に対してこうしてたとか、そういうふうなことをご研究いただいて我々の前で、提示していただくと我々もそういう配慮の仕方があるのかというふうには思いやすいというところもあるのでどうでしょうか。

(教育長) 先ほど高越小学校、吉野川市において、最初の統合のお話いただいたのですが、その時も、実は市教委の支援をかなり受けて、そのあといろいろな部会があって、例えば総務部会であれば、今後どういう体制でいくか、教育課程部会であれば、どういう教育を、4つの学校が1つになるわけで、それぞれの地域で大事にしてきたことをどう1つの学校に生かしていくか、あのときは川田中小学校の場所に集まったのですが、川田中の地域のことだけやるのではなくて、たとえ離れていても、それぞれ地域の大事にしていることとか、確か健全育成会とか子どもたちを守る会があって、そういう方の意見も伺いながらというようなことで、実は私当時川田中小学校の校長としておりまして、4つの学校のその中の1つだったのですが、最終私が高越に残って、初代の校長として2年間勤めたのですが、その過程の中で、実は校長同士が、かなり新しい学校をどうしていくか、残る校長がやれということではなくて、異動する校長もうちの学校にはこういう実情があるからこういうところを生かして欲しいとか、つまりは、どの学校の保護者、地域の方にも高越小になって本当によかったなと思ってもらえるような教育をしていかないと、というようなことが大前提にあって、3時に集まって5時までその議論をして、それで5時が来たら、場所を移して、膝を交えて、これから高越小をどうしていくかという議論を本当にやりました。

だから、そういういろいろな市教委や地域の方のご支援も無かったらだめなのですが、子どもに実際に教育、支援していく教員、若しくはそのトップの校長が、どうしていくかという方針、先程、委員がおっしゃられたように、東中から子どもたちが来るということは当然、その子たちのことを知っている教員のことも踏まえて考えないと、親御さんは子どもだけ行って、仮に行っただとして、一中の先生だけでというのは不安があるし、特に支援学級に席を置いている親御さんとか、不登校傾向の親御さん、特にそこが心配になると思うので、そういうところも踏まえて、まず、学校、中でどうしていくかそれを市教委にも支援を求めながら、例えば人の配置、これについては非常に大きかったと思います。

ただ、最初の1、2年はいろいろな意見もありました。やっぱり、前の方がよかったなという声も正直ありましたけれども、多くの方が、高越になっていくところで、代々、今あるわけなのですが。そういう思いを今も高越は受け継ぎながら行っている

と思うので、かなり今のこの東部地区のことにしても、そういうところは、やはり教育委員会もしっかり校長と共に、考えていかないといけないなど、それが1つは親御さんの安心、不安解消に繋がっていくのかなと、当時のことを思い出しました。

(委員)　　そういうふうに言ってくだと、そうかそこまでやってくれるのでしたら、我々も統合という道で、あとは学校の先生方や教育委員会にお任せをして、大船に乗ったつもりでお任せができるかなというふうに、思えるのかなと思いました。

(教育長)　　ありがとうございます。ただ、教育委員会として統合の方に向けて行け、ということではなくて、あの当時を思い出して、そういう思いでやってきたということでございます。

(委員長)　　実際に統合に携わった教育長様のお話からわかるように、やはり統合という方向性を出しても、漠然として、いろんなメリット・デメリットがありますよね。

この会で一応方向性を先程からも申し上げているのですが、本当に統合という方向性だけ出てしまっ後はどうか、ということは決してないと思います。

教育長さんがおっしゃったように、一応方向性は決まりました、ではこれからそれに向けてどういうふうな動きがあつて、準備委員会が設立されて、一番大切なのはやはり子どもの教育ですから、それを中心として子ども、地域、保護者、教職員、いろいろな関係者がある中で、それに対する準備委員会ができあがつて、もし統合になるのであればよりより良い統合の方向に持っていくということが必要だと思います。

統合か存続かばかり言ってきたのですが、今、教育長さんや市教委事務局から話を聞きますと、その方向性が決まった後で、いろいろな準備期間、それに向けてのいろいろな準備をする期間があつて、2校がどういうふうに、お互いのいいところを、一緒になつて、子どもたちが、よりよい中学生生活が送れるかというような方向に持っていくということになっていくと思います。

よろしいでしょうか。他の委員さん、どうでしょうか。

(委員)　　少し話が戻るのですが、周りの親御さんの声から、また他の委員からも話が出たのですが、今現状、森山小学校は本当に親が送ってくる子が多くて、歩いてくる子はほぼいないです。それが一中に全部行つたとしたら、一中周辺が大渋滞になることが考えられますし、通勤時間帯で、雨の日とかであれば、事故があつたりとか、そういうことについて声があがっています。

なので、通学面のことだけで言えば、そのような親の不安っていうのもあるかと思ひます。

(委員長)　　他の委員さんどうでしょうか。牛島小学校はどのような状況でしょうか。

(委員)　　本校は集団登校を推奨しているのですが、ほとんどが集団登校で歩いて登校しております。

ただ、確かに子どもさんの特性とか配慮によって送ってくる場合もありますし、雨の日は車でというのが、多くなつたりもしていますが、人数で言うと、100人近くは歩いて来ているという状況です。毎日90人から100人が歩いて来ている、児童は121人なのですが、他は送迎、平均してそうになっています。

中学校に行くともみんな自転車通学になっているのかなと、現状私は掴めていないのですが。

(委員) 毎朝校門に立っていると、当然車の送り迎えは、雨の日は本当に多いなという、感じはするのですが、基本晴天のときには、5 %ぐらい 120 人中、6、7 人が、常時車で登校というイメージです。ですので、元気に自転車来ています。

(委員) さっきの話なのですが、委員がおっしゃった車の部分もあるし、もし仮に、中学校に自転車で行く子が増えたとしても、一中の東側の交差点は非常に危ないということなので、どちらにしても、やはりそういう部分は考えていかないといけないと思います。

(委員長) もし今のデメリットというところで考えられるのが交通、通学の件と、いろいろな教育活動とか、特別支援や不登校の子どもとかそういった子どもに対する支援のあり方、そういったところをどういうふう to 今後捉えていくか、ということは、今後の方向性が決まった後の準備委員会とか、そういったところで、新しい学校を作ると、これが東中学校が一中に移ったということではなくて、2校が1つの新しい学校を作る、新しい学校というようなことに対しては、準備委員会を立ち上げる中で、こういったことは、いろいろと協議なされていくと思います。

確かに通学の面でも、非常に危ないですね。

通学の問題でも、上浦の子が6kmで、約40分かかると、そのようなことについての支援もまた必要で考えなければならないと思うのですが、そういった通学の面と、いろいろな教育活動、子どもたちのより良い教育活動ができること、また教職員が働きやすい環境の中で、新しい学校で、統合する場合であれば、そういったいろいろな支援のことについて、準備委員会の方で作り上げていかなければならないと思いますが、このような面についてはいかがでしょうか。

(委員) とりあえず今皆さんからお聞きした、統合する場合、基本的には私も物理的というか現実的には、東中学校の生徒が一中に通うということになるかと思うのですが、皆さんのご意見にもあったように、東中学校の生徒が一中に通うということが現実なのですが、新しい学校ができたという、そこは外して欲しくないと思います。

新しく学校ができた、それが一中の場所だったんだと捉えられるような統合のあり方であって欲しいということと、新しく学校ができて、先程少し言いましたが教育環境、公民館とかすべて合わせて、教育ゾーンとしてこんな整備ができましたという1つのシンボリックに、通学路の安全ということから先程話しが出た、踏切のところの高架橋を作るか、私は、アンダーパスで抜いたらどうかと思うんですよ、公民館の庭の方に踏切の南側からアンダーパスを抜いたらどうかと頭の中では思っているのですが。ただ、具体的には、JRが絡んできたり国道ということで、非常に行政進めるのは大変だとは思いますが、1つの統合した学校ができた、交通安全のシンボルというか、安全を守るために、学校ができると同時にこういうことができたということ打ち出せると、すごく統合というのは、他の方が受けるイメージも良くなるのではないかな、というふうに思いました。

(委員) 東中学生が東中学校から一中に行った場合なのですが、これもちょっと周りの声があって、遠くなれば東中学校区の子は部活動をする子が減ってくるんじゃないか、という意見がありました。屋外でする部活に関しては、雨の日は休み、そういうのはあると思うのですが、屋内でする部活に関しては、雨の日とかでも毎回、親が送っていかねなかった自転車で行かせる、とか、そういう面でも不安というのもちょっと聞いて

います。

(委員長)

保護者の送り迎えが必要になるということですね。
部活するにしても、ということで、そういった意見があるということですね。
その他、委員の皆さんどうですか。

(委員)

先日、こども Do まんなか会議を見させていただいたのですが、本来はやはり、通
学路で不安を感じる子どもさんの意見もたくさんあったと思います。東部地区だけ
ではないと思うのですが、学校が一緒になったときにやはり不安を解消するためにお金
もたくさんかかると思いますので、方向性が決まったら、前倒しでどんどん進めてい
けることはやってもいいのかなと思っています。

西の方であればスクールバスを出していますし、高越小もバス出していますよね。
5km 圏内という条件があるかもしれませんが、子どもたちの安心安全、地域の安心安
全に繋がることだと思いますので、そういうところも含めて、子どもたちの意見も、
方向性が決まったら、こども Do まんなか会議みたいな感じで、新しい学校名決めま
しょうとか、校歌作りましょうとか、いろいろできると思うので、こういったことも
含めて前向きに考えてくださったらいいのかなと思っていますが、他の委員様どうで
しょうか。

(委員)

新しい学校ということで、これは多分統合が決まってからのことにはなると思っ
ているのですが、学校名の改称とか、そういうことも含めて、実際教育委員会さんで考
えていただければ、保護者の方も、ただ東中学校から一中に行ったということではな
くて、やはり新しい学校に、子どもたちも行けるよという、モチベーションが上がるよ
うな、アピールできる場所を作っていくかといけないうのかなと思います。

当然、登下校の不安とか、先程のアンダーパスの件、私もその不安を解消するのは
自転車でしたら、アンダーパスぐらいしかないのかなという、そういうことも含めて、
新しい学校になりましたよという印象を与えられる、統合するということになれば、
そのような方向性を作っていくようになっていけるようになっていけるのではないかと
思います。

子どもたちに当然アピール、新しい学校で勉強したい、ここに行きたいというこ
ろ、その方向に行けるような結果になればいいのではないかと個人的に思っています。

(委員長)

いろいろと各委員さんからもご意見いただきましたけれども、もう他にございませ
んでしょうか。

いろいろな本当に議論していただきました。

これをまとめるというのは非常に難しいのですが、やはり、いつまでもこのままの
現状にいるということは、不安感とか、いろいろとかえって逆効果になるのではない
かと、統合すると決めた方がいいのではないかとご意見もございました。方向性
を決めるときにはいろいろなデメリット、不安材料もたくさんあると思います。通学
の問題、特別支援の問題と不登校の問題。新しいこの学校の風土、今までの風土を新
しい学校で作られるかどうか、また一中と東中学校との連携、新しい学校ができるこ
とによるいろいろな問題がたくさん出てくるのではないかとということもあったので
すが、やはり早急に決めた方がいいのではというようなご意見だったと思います。

一応方向性が決まったときには、いろいろ、手立て、予算化、そういったことをお
願いできるのではないかとご意見もあつたように思います。

一応方向性を見定めた場合には、それに対してのやはり準備委員会とか、いろいろ
組織が立ち上がると思います。

その中で、今の委員の皆様方がご心配されているようなことが、1つ1つ解決されて、より良い方向に持っていけるのではないかと、皆さんの意見を聞きながら、感じました。事務局、どうでしょうか

(事務局) 今、委員長がおっしゃっていただいたような形で今後、最終的にはどうなるかというのは今現段階ではわからない話ですけれども、仮に統合というような話で進めるに当たっては、今後提言いただきましたら教育委員会としては、どこかの時点で結論、方針を決めて、どういった準備が必要なのか、そういうことも含めて、また検討して参る必要があると考えています。

この委員会の中では、我々が進めていく中で、そういった参考となるようなご意見というのを、諮っていただけたらと思っております。

(委員長) それでは各委員様からいろいろな意見をいただいたのですが、一応方向性として、存続する方がいいのか、統合する方がいいのか、各委員様にお聞きかせいただいて、その次にいきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員) 議論はこれからだと思いますが、個人的な意見では、前向きに統合の方向で進めばいいかなと思いますけれども、そのデメリットというか、解消しないといけないところが、すごく多くて、それが解消できる見込みがないのであれば、最後は統合は難しいと思うので、これを議論していく会かなと思います。また、話し合いは統合、新しい学校を作っていくという形で前向きに話して、ここでは出なかったデメリットがいっぱい出てくると思うので、そこをどう解消していけるかというような議論がこれから必要かなと思います。

(委員長) ありがとうございます。
一応、統合という方向で持っていきたいのですが、デメリットがいろいろとあるので、話し合いが必要だというご意見でした。

(委員) 前向きに統合の話をしていくのですが、その中で出てくるデメリットをどのように解消していくのかという整理が必要なのではないかと思います。

(委員) 個人的には、統合もありなのかなと思う反面、やはりデメリットがすごく、多くなるのではないかということと、子どもの問題というのはもちろん第一に考えないといけないと思うのですが、そこについてくるやはり親の問題というのが、デメリットとしてこれから出てくるとは思います。

そこをやはり、親御さんの傾向、うちもそうなのですが、子どもの意見をももちろん尊重するのですが、やはりいろんなことに関して最終的には親が決めると、そういうことが生活していく中で見られると思います。

極端に言えば、さっきちょっと私が言った一中との統合があったときに、一中で部活したいと子どもが親に言ったとしても、雨の日は危ないから、通わせられないというようなデメリットも出てくるとは思います。

そういういろいろな、子ども第一に、また親についても考えていかなければいけないのかなと思います。

(委員) 私の個人的な意見としては、10年前から変わらず、統合の方で進めていきたいと思っております。

当初の計画で今年度、東中学校、一中統合していたのではないかと思います。

メリット・デメリットで見ると、デメリットもまだこれだけではなく、本当に実際どうなのかということも出てくるとは思います。

それはそれで、多分、学校、教育委員会、家庭の中等々で、いろいろな話の中で、解消ができるものがほとんどあるのではないかなと思います。できないものも、もちろんあると思いますが、それを上回る、私は子どもの教育一番で、学校生活を楽しめるようなことをやっていきたいと思っておりますので、まずは統合の方向で。

デメリットとして解消できないところはまた市でも、家庭の方でも考えていくような方向で良いのではないかなと思っております。

(委員) 私個人としたら、統合したらいいかなと思います。

あまりちょっと難しいことはわからないのですが、子どもが楽しくいけたら、統合してもいいかなと思います。

統合しなかったらよかったと思わないように、統合して欲しいなと思います。

(委員) 個人的にということで、やはり前回のときに申し上げたと思いますが、推移を見ていて、やはり子どもたちにとって、どのような環境がより良い環境として望ましいのかと思っていくのであれば、私はやはり一緒になるのが良いと考えています。

先ほどからデメリットのこと、いろいろ委員さんから出てきましたが、でもそのデメリットを出す前提には何かあるかと言うと、一緒になるためにはというのがあったように思います。私も同じ意見です。

(委員) 私も大体、今まで皆さんがおっしゃってた意見と同じ、私も先ほど申し上げましたけれども、方向としては、この提言は統合の方向でということで、ただ、先ほど申し上げましたように、吸収というような感じが残らないように、言葉は、対等合併というか、合併とかではなくて、新しい鴨島地区の中学校作るんだ、そこには、こんな変わってくるところ、いろんな教育環境も整えられたものができるんですよということを打ち出しながら、作っていつてもらえたらなと思います。

先程、高越小学校の話が出ましたが、やはり新しいものができて、いろんなデメリットもあったと思うのですが、携わる人が事前にいろんなところを想定して、そこをケアしながらという、そのシステムを同じように、作って欲しいなと思います。

(委員) 私はいち早く統合、一緒になるべきだと思います。

それもできるだけ速やかにやるべきだと。ただ、不安が多々ありますから、例えば、さっき教育長さんがちょうどおっしゃってくれたように、新しい学校を作るんだということで一生懸命、校長先生同士が、議論をして、新しい学校を作ったというように、鴨島一中と東中が一緒になるとしても例えば名前も鴨島中学校として、どのような学校を作るかということ、校長先生方とか先生方も含めていろいろ議論してくれて、こういう学校、一緒になるのだからこういう学校作ろうよというところで、まとまっていつてくれたら、そういうことが保護者、子どもたちの地域に伝われば、その不安は、だんだんとなくなっていくのだろうなと思います。

ですので、できるだけ早く統合をしていこうか、それとあわせて東中学校の後、統合するとして、東中学校の跡地を、どうやって利用していくのかということもあわせて、考えていただきたいと思います。

(委員) 学校運営する立場のものとして、やはりすべては子どもたちのためにという思いで、

地域、保護者、教職員一緒になって取り組んでおります。

今の段階で、子どもたちにとって一番良いのは、何なのかと考えたときに、立場上断言はできないのですが、やはり、新しい1つの学校ができることなのかなと私は思っています。

ただ、そこにはいろんなデメリットが先ほどからあるように、これからまた新たなデメリットも出てくると思います。

でも、デメリットを100%解消するというのは、不可能だと思います。

その中で、やはりどれを主に重きを置いて解消していくかということと、解消できないものがあったとしても、それをみんなが納得の上で進められていく。

そのためには、やはりそれぞれに向かっての説明であるとか、それぞれの意見を吸い上げていくとか、そのような過程を大切にしながら進めていけたらいいのではないかと考えています。

(委員) 鴨島一中と東中学校が統合することで、鴨島町の中学生たちがさらに1つになって、前を向いていけるような、統合になればと思います。

それと、先ほど速やかにという話もありました。今、私が現時点で把握している限りでは、来年度、東中学校に行く児童について、私はもっといろいろな動きがあるのかなと聞いていたのですが、そんなに多くはないです。

例年のような形で、東中へ行ったり、受験したり、一中へ行ったりということですが、これが速やかにならない場合は、一気に一中に動いていったりして、東中学校が準備期間の2年3年とおっしゃられてた期間がどうなるのかというのはちょっと不安ですので、その辺は、よろしくお願ひしたいと思います。

(委員) 統合した方が良いとか、いけないとかというのは、統合した方が良いというのは今の自分を否定するような気持ちになる感じがして、どんな状況であれ、目の前に子どもがいる以上、たとえ全校生徒が1人になっても、私は全力を尽くすのが我々教員の仕事かなと、政治と教育は切り離して考えていかないと、私たちはちょっとやっけないところがたくさんあるかなというふうに考えています。

もちろん、教員数に限りがあるというのはわかっておりますが、当然、山の学校とかは、少ない中でも、何とかやりくりしながら、子どもたちのために全力を尽くしているというのは事実です。

多分、その教員数云々かんぬんというのは比較論であって、一中は5教科全部揃っていますよ、東中は揃っていませんという、そういう比較だと思うんですけど、少ない中でも、私は全力を尽くすのが我々の仕事だなど、魅力ある学校を作っていますので、よろしくお願ひします。

(委員) 個人的にはなりますが、統合のその先も考えての統合にしていきたいと思ひます。

例えば、一中のグラウンドに新しい校舎を建てるとか、そういう方向性を、どこかに、新しいものを作って、建物も大分古いと思ひますので、いつかはもう近いうちに建て直さなきゃいけない状況に、あるんじゃないかなと、個人的には勝手に思ひているのですが、そういう構想が市の方におありであるならば、より一層、2校の統合に向けて、絵を描いていって、子どもたちも、それに沿って、意欲を持って学習に取り組めるよう、環境を作っただければと思います。

例え、統合にならない場合も、先程委員がおっしゃっていましたが、最後の最後の1人まで、ちゃんと教育していく、そういう姿勢を教育委員会も持っただいて

いないと統合の方法がまだずれていくと大変なことが起こってくるのではないかと思います。そのあたり、よろしく願いいたします。

(委員) それぞれ委員さんが考えること、すごく伝わってきたのですが、私も最後の 1 人になった子どもの校長として、その子が、大きい学校に 1 人入っていくために、自分がずっと 1 週間に 1 回一緒にその学校に行って、繋げていった経験だったりとか、それから 1,000 人規模の学校に勤めたりとか、いろいろな経験も踏まえてきました。

実は昨日の会の最後の段階で、吉野川市も合併して 20 年になって、最初はいろいろ心配だったけど、今はよかったと思っているよ、という話になりました。

本当化学反応だからどうなるかわからないけれども、不登校問題にしても、私も美郷で勤めたとき 1 クラスでして、やはりいろいろ人間関係も固定化してくる中で、複数のそれこそクラス替えができるのであればこんなことないのにな、とかいろいろ考えることもありました。

もしかしたら、環境が変わると、学校へ来はじめるという子を、今までたくさん見てきた気がしますので、本当に今後、そういう分科会において、最善の方向で、子どもたちに一番いい方向の教育をやっていけたらいいなど、私は自分が一中で子どもたちが東中学校出身ですので、子どもたちの意見も聞きながら、本当にそう思っているところです。

(委員長) それぞれの各委員さんのお考えをお聞きしますと、統合の方向でいくというようなものにまとまっていたように思うのですが、よろしいでしょうか。

それも、いろいろと不安がっているから早急に決定した方が子どもたちにとってもより良い、保護者にとっても良い方向に行くのではないかと。

しかし、それに伴っていろいろなデメリット、今後考えなければならないことが、多々、出てきたように思います。

そういった方向性の中で、いろいろな不安とかデメリット、そういった今後も検討していかなければならない件に関しましては、先ほど事務局からご説明ありましたように、それに向かっての準備委員会、そういったものを設立されて、それに向かっての準備期間ということで、より良い統合と言いますか、そういう方向には向かっていくということでしたが、そういった方向で、この会の結論としてよろしいでしょうか。

(委員) (異議なし)

(委員長) はい。ありがとうございました。

それでは、教育委員会から提言も依頼されておりますこの学校再編の是非について、本委員会としての判断として統合の方向に行きます。

一応これで、この審議については終結し、いろいろな不安やデメリットを、提言書作成しますので、それに今日皆様方から出たご意見などを付帯条件として、書いていただいて、それを条件として鴨島第一中学校と統合することが望ましい。という結論で出していきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(委員) (異議なし)

(委員長) それでは、このような結論ということで、事務局どうでしょうか。今皆さんからいろいろデメリットや不安材料が出たのですが、それを提言書にまとめて、次の会に出していただけますか。

(事務局) はい。それでは、ただいま意見としては統一した方向性で統合ということでお話をいただきました。あり方検討委員会の結論として、市教育委員会に提言いただくということがゴールとなりますので、今日の会で皆さんからいろいろな意見をいただきましたので、それを事務局の方で一度取りまとめたと思います。

それで、たたき台を作成いたしますので、またでき次第、委員の皆様には事前にお配りをして、またそれについてのご意見を、加筆修正等のご意見をいただけたらと思います。

(委員長) 今、説明がありましたように、提言書の案をたたき台として作成していただけるということですので、次回はそれについて、皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと思います。それでは、次回の会議日程について、事務局からよろしく願いいたします。

4 その他 (事務局) それでは事務局としましては、10月28日(月)の午後7時から、お願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

(委員長) はい。次回会議につきましては10月28日(月)午後7時ということでよろしいでしょうか。

それでは次回の会は、先ほど申しあげましたような内容で、検討をお願いしたいと思います。

本日は委員の皆様にはいろいろな視点からご意見をいただきました。一応方向性が、定まったということで感謝申し上げたいと思います。

以上をもちまして、第2回鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会を終了したいと思います。長時間にわたり、いろいろと本当にご意見ありがとうございました。

(事務局) 最後に教育長からご挨拶を申し上げます。

(教育長) **【教育長あいさつ】**